

- 101) 玉田 崇, 間瀬 肇, 安田誠宏: 複合断面に対する波の不規則性を考慮した打上げ高算定法に関する研究, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.B2-65 No.1, pp.936~940, 2009.
- 102) Mase H.: Random wave runup height on gentle slope, J. Waterway, Port, Coastal and Ocean engineering, ASCE, Vol. 118, No. 5, pp.649~664, 1989.
- 103) 間瀬肇, T.S.Hedges M.Shareef, 永瀬俊二: 波の打上げを考慮した傾斜護岸に対する越波流量算定法に関する研究, 海岸工学論文集 第50巻, pp.636~640, 2003.
- 104) Van der meer, J.W. and C.M.Stam: wave runup on smooth and rock slopes of coastal structures, J. Waterway, Port, Coastal and Ocean Engineering, ASCE, Vol. 118, No. 5, pp.534~550, 1992.
- 105) Saville, T. Jr. : Wave run-up on composite slopes, Proc. 6th Conf. on Coastal Eng., pp.691~699, 1958.
- 106) 中村充, 佐々木康雄, 山田譲二: 複合断面における波の打ち上げに関する研究, 第19回海岸工学講演会講演集, pp.309~312, 1972.
- 107) 細井正延, 三井宏: 砕波点より陸側にある海岸堤防への波のうちあげ, 第9回海岸工学講演会講演集, pp.143~148, 1962.
- 108) 細井正延, 首藤伸夫: 堤防に斜めに入射する場合のうちあげ高について, 第9回海岸工学講演会講演集, pp.149~152, 1962.
- 109) 桜庭雅明, 榊山勉, 有川太郎, 井上温人, 中平順一, 和田匡央: 波の遡上に対する CADMAS-SURF の適用性の検証, 海洋開発論文集 第24巻, pp.867~872, 2008.
- 110) 土木学会: 数値波動水槽—砕波波浪計算の深化と耐波設計の革新を目指して—, pp.43~53, 2012.
- 111) 桜庭雅明, 弘崎聡, 榎山和男: CIVA/Level set法による越波・遡上の数値解析, 海岸工学論文集 第51巻, pp.36~40, 2004.
- 112) 平山克也, 春尾和人, 宮里一郎: ブシネスクモデルを用いて算定したリーフ上護岸の設計諸元に関する考察, 港湾空港技術研究所報告 第48巻 第3号, pp.23~74, 2009.
- 113) 平山克也, 森内政弘, 伍井稔, 加地智彦, 玉田崇: ブシネスクモデルを用いた海岸護岸における護岸越波量の推定, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.68 No.4, pp.I_780~I_785, 2012.
- 114) 本田隆英, 伊藤一教: 不規則波による越波を対象とした数値波動水路の適用性に関する研究, 海岸工学論文集 第55巻, pp.816~820, 2008.
- 115) 合田良実, 岸良安治, 神山豊: 不規則波による防波護岸の越波流量に関する実験的研究, 港湾技術研究所報告 Vol.14 No.4, pp.3~44, 1975.
- 116) 合田良実, 岸良安治: 不規則波による低天端型護岸の越波特性実験, 港湾技研資料No.242, p.28, 1976.
- 116-1) 阿部洋士, 高橋武志, 鈴木高二朗, 中澤祐飛: 改良型護岸の越波流量低減効果と CADMAS-SURF の再現性の検証, 港湾空港技術研究所報告, Vol.62, No.3, pp.3-49, 2023.
- 117) 高山知司, 永井紀彦, 西田一彦: 各種消波工による越波流量の減少効果, 港湾技術研究所報告 Vol.21 No.2, pp.151~205, 1982.
- 118) 高山知司, 永井紀彦, 西田一彦, 関口忠志: 斜め入射不規則波を用いた護岸の越波特性実験, 海岸工学論文集 第31巻, pp.542~546, 1984.
- 119) 平石哲也, 望月徳雄, 佐藤一央, 丸山晴広, 金澤剛, 榊本達也: 護岸越波流量における波の多方向性の影響, 港湾技術研究所報告 Vol.35 No.1, pp.39~64, 1996.
- 119-1) Hirayama, K. : A simple estimation of wave overtopping rate on revetment taking the varieties of height and setback distance of parapet into account, *Proceedings of the Thirty-first International Ocean and Polar Engineering Conference (ISOPE-2021)*, pp.2278-2283, 2021.
- 120) 玉田崇, 井上雅夫・手塚崇雄: 緩傾斜護岸の越波流量算定図とその越波低減効果に関する実験的研究, 海岸工学論文集 第49巻, pp.641~645, 2002.
- 121) 玉田崇, 間瀬肇, 安田誠宏: 波の打上げを考慮した越波流量算定法の提案, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.66 No.1, pp.926~930, 2010.
- 122) 間瀬肇, 玉田崇, 安田誠宏, 川崎浩司: 打上げ・越波統合算定モデルの精度検討, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.72 No.1, pp.83~88, 2016.
- 123) 玉田崇, 間瀬肇, 安田誠宏: CLASH データセットに基づく打上げ・越波統合算定モデルの直立護岸への拡張, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.71 No.2, pp.I_847~I_852, 2015.
- 124) CLASH project: <http://www.clash.ugent.be/>, presented by De Rouck, J., H. Verhaeghe and J. Geeraets, Crest level assessment of coastal structures – General overview, J. Coastal Eng., Vol. 56, Issue 2, pp.99~107, 2009.
- 125) EurOtop: European manual for the assessment of wave overtopping, T. Pullen, N. W. H. Allsop, T. Bruce, A. Kortenhaus, H. Schuttrumpf and J. W. Van der Meer eds., HR Wallingford, Wallingford, U.K., 2007.
- 126) 合田良実: CLASH データベースに基づく統一的越波流量推定式の提案, 海洋開発論文集 第24巻, pp.939~944, 2008.
- 127) 宮島正吾, 小椋進, 大橋幸彦, 森川高徳, 奥田純生: 波返し付き傾斜護岸の越波流量特性に関する実験的研究, 海岸工学論文集 第51巻, pp.636~640, 2004.
- 128) 合田良実: 防波護岸の越波流量に関する研究, 港湾技術研究所報告 Vol.9 No.4, pp.3~41, 1970.
- 129) 福田伸夫, 宇野俊泰, 入江功: 防波護岸の越波に関する現地観測 (第2報), 第20回海岸工学講演会論文集, pp.113~118, 1973.

- 130) Allsop, N. W. H., L. Franco, G. Bellotti, T. Bruce and J. Geeraerts: Hazards to people and property from wave overtopping at coastal structures, Coastlines, Structures and Breakwaters, (Proc. Int. Conf.) Inst. Civil. Engrs., Thomas Telford, pp.153~165, 2005.
- 131) 木村克俊, 浜口正志, 岡田真衣子, 清水敏晶: 消波護岸における越波飛沫の飛散特性と背後道路への影響, 海岸工学論文集 第50巻, pp.796~800, 2003.
- 132) 永井荘七朗, 高田彰: 海岸堤防の越波に及ぼす消波堤の効果, 第11回海岸工学講演会講演集, pp.279~286, 1964.
- 133) 鈴木康正, 平石哲也, 望月徳雄, 森川高德: ヒアリングによる護岸の越波被災調査, 海岸工学論文集 第41巻, pp.681~685, 1994.
- 134) 安田誠宏, 平石哲也: 臨海部の複層都市空間におけるMARS法を用いた高精度な浸水解析, 港湾空港技術研究所報告 第43巻 第2号, pp.3~34, 2004.
- 135) 山城賢, 吉田明徳, 橋本裕樹, 久留島暢之, 入江功: 越波実験における風洞水槽内風速の現地風速への換算, 海洋開発論文集 第20巻, pp.653~658, 2004.
- 136) 合田良実: 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp.91~96, 2008.
- 137) 合田良実, 鈴木康正, 岸良安治: 不規則波実験とその特性について, 第21回海岸工学講演会論文集, pp.237~242, 1974.
- 138) 平山克也, 長沼淳也: 越波が生じる港内での静穏度解析に及ぼす越波伝達波の影響について, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.70 No.2, pp.I_761~I_765, 2014.
- 139) 平山克也, 加島寛章, 林 健太郎, 五十嵐雄介: 越波伝達波を含む港内波浪観測データの再現計算, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.69 No.2, pp.I_682~I_687, 2013.
- 140) 松本朗: 数値波動水路による越波伝達波の計算, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.65 No.1, pp.781~785, 2009.
- 140-1) 平山克也・濱野有貴・長沼淳也: 潜堤による港内波の制御に関する基礎的研究, 港湾空港技術研究所報告, Vol.59 No.1, pp.66~114, 2020.
- 141) 近藤淑郎, 佐藤功: 防波堤天端高に関する研究, 北海道開発局土木試験所月報 第117号, pp.1~5, 1964.
- 142) 谷本勝利, 大里睦男: 消波ブロック被覆堤の不規則伝達波について, 第26回海岸工学講演会論文集, pp.309~313, 1979.
- 143) 坂本洋一, 宮地陽輔, 上西隆広, 竹田英章: 傾斜堤の水理機能に関する実験的研究, 土木試験所報告 第82号, 1984.
- 144) 田中則男: 天端幅の広い潜堤の波浪減殺および砂浜安定効果について, 第23回海岸工学講演会論文集, pp.152~157, 1976.
- 145) 近藤淑郎, 竹田英章: 消波構造物, 森北出版, pp.70~114, 1983.
- 146) 沼田淳: ブロック堤の消波効果に関する実験的研究, 第22回海岸工学講演会論文集, pp.501~505, 1975.
- 147) 森平倫生, 柿崎秀作, 合田良実: カーテン防波堤とその特性について, 港湾技術研究所報告 Vol.3 No.1, pp.1~27, 1964.
- 148) 榎木亨監修: 環境圏の新しい海岸工学, フジ・テクノシステム, pp.258, 1999.
- 149) Longuet-Higgins, M.S. and R.W. Stewart: Radiation stress and mass transport in gravity waves with application to surf beats, Jour. Fluid Mechanics Vol.13, pp.481~504, 1962.
- 150) 合田良実: 方向スペクトル波浪によるWave Setupと沿岸流速の設計図表, 海洋開発論文集 第21巻, pp.301~306, 2005.
- 151) 平石哲也, 田所篤博, 藤咲秀可: 港湾で観測された長周期波の特性, 港湾技術研究所報告 Vol.35 No.3, pp.3~36, 1996.
- 152) 沿岸技術研究センター: 港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.1~14, 2004.
- 153) 加藤一正, 中村聡志, 池田直太: 波の連なりを考慮した長周期波の波高推定一波崎海洋研究施設における現地観測にもとづく検討一, 港湾技術研究所報告 Vol.30 No.1, pp.137~163, 1991.
- 154) 平石哲也, 河野信二, 玉城重則, 長谷川準三: 港湾構造物の設計に用いる長周期波の標準スペクトルについて, 海岸工学論文集 第44巻, pp.246~250, 1997.
- 155) 平山克也, 加島寛章, 長沼淳也, 宇野喜之: 拘束波由来の港内長周期波を考慮した港内静穏度解析, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.70 No.2, pp.I_211~I_216, 2014.
- 156) 平山克也, 加島寛章: 風波の波浪諸元に応じた長周期波の標準スペクトル推定法に関する検討, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.70 No.2, pp.I_116~I_120, 2014.
- 157) 沿岸技術研究センター: 港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.48~52, 2004.
- 158) 同上, pp.49.
- 159) 平石哲也, 平山克也, 小澤敬二, 森屋陽一: 長周期波対策工の消波性能について, 港湾空港技研資料No.1205, 16p, 2009.
- 160) 山田晶子, 国栖広志, 爲廣哲也, 小平田浩司, 平石哲也: 石巻港における長周期波の消波対策に関する検討, 海洋開発論文集 第21巻, pp.785~790, 2005.
- 161) 小澤敬二, 森屋陽一, 山本禎寿, 平山克也, 平石哲也: 秋田港における港内長周期波対策施設による静穏度向上効果, 海洋開発論文集 第25巻, pp.653~658, 2009.
- 162) 松野健, 矢野隆博, 葛西弘行, 山本泰司, 平石哲也, 木村克俊: 苫小牧港西港区における長周期波対策工に関する現地観測, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.67 No.2, pp.681~685, 2011.
- 163) 平山克也, 川内清光, 宮里一郎: 消波工に斜めに入射する波の反射率に関する一考察, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.67 No.2, pp.I_686~I_690, 2011.
- 164) 田中真史, 松本朗, 半沢稔: 没水型長周期波対策工の消波特性に関する実験的検討, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.68 No.2, pp.I_816~I_821, 2012.
- 165) 上田茂, 白石悟, 大島弘之, 浅野恒平: 係岸船舶の動揺に基づく荷役許容波高及び稼働率, 港湾技研資料 No.779, p.44, 1994.

- 166) 平山克也：ブシネスクモデル (NOWT-PARI) を用いた高精度港内静穏度解析法の提案, 港湾空港技研資料 No.1159, 90p, 2007.
- 167) 沿岸技術研究センター：港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.17~18及び付録A-2~付録A-7, 2004.
- 168) 同上, pp.19.
- 169) 日本海難防止協会：海上交通安全に関する基礎的事項の調査研究 その3 -航行船舶の航走波が小型船舶に及ぼす影響の研究, p.83, 1976.
- 170) 日本海運集会所：日本船舶明細書 (2017年版), 2017.
- 171) 塩谷茂明：航走波の推定計算法の比較について, 日本航海学会論文集, 第106号, pp.271~277, 2002.
- 172) 竹内能忠, 七沢謙：今治海岸におけるいわゆる「軍艦波」について, 日本海洋学会誌, Vol.17, No.2, pp.80~90, 1961.
- 173) Ertekin, R. C., W. C. Webster and J. V. Wehausen：Ship-generated solitons, Proc. of the 15th Symposium on Naval Hydrodynamics, pp.347~364, 1985.
- 174) 沿岸開発技術研究センター：浮体構造物技術マニュアル, p.115, 1991.
- 175) 神田勝己, 白石修章, 滝野義和：浮遊式係船岸の動揺特性について, 海洋開発論文集, Vol.2, pp.163~168, 1986.
- 176) 豊田昭三：浮遊式海洋石油備蓄システム, 第4回海洋工学シンポジウム, 日本造船学会, pp.25~50, 1979.
- 177) 木暮健一郎, 鈴木康正, 片桐正彦, 八畝隆：浮防波堤の設計と施工, 海岸工学講演会論文集, Vol.30, pp.435~439, 1983.
- 178) 丸山忠明：旋回式浮体橋の建設, 第14回海洋工学シンポジウム, 日本造船学会, pp.327~334, 1998.
- 179) 大阪市建設局：夢舞大橋工事誌, 大阪市, 2002.
- 180) 宮本卓次郎：浮体式防災基地について, 港湾荷役, 第44巻3号, 港湾荷役機械化協会, 1999.
- 181) 小沢大造, 宮地陽輔, 小泉哲也, 和田耕造, 松下泰弘：浮体式防災基地の整備について, テクノオーシャン2000国際シンポジウム論文集, テクノオーシャンネットワーク, pp.623~628, 2000.
- 182) 沿岸開発技術研究センター, マリンフロート推進機構：大規模浮体構造物の研究報告書, p.638, 1995.
- 183) メガフロート技術研究組合：超大型浮体式海洋構造物 (メガフロート) 平成9年度研究成果報告書, p.350, 1998.
- 184) マリンフロート推進機構：大規模浮体構造物, 鹿島出版会, p.172, 2000.
- 185) メガフロート技術研究組合：メガフロートの空港利用に関する実証的研究 (メガフロート技術研究成果報告書) -フェーズII成果概要及び平成12年度研究成果-, p.228, 2001.
- 186) 高山知司, 平石哲也, 古川正美, 佐尾邦久, 立野信一郎：一点係留ブイの運動と係船索張力に関する現地観測, 港湾技研資料, No.542, p.38, 1985.
- 187) 岩谷文方, 宮井真一郎, 三品欽治：酒田港における新構造形式による波浪観測について, 海洋開発論文集, Vol.2, pp.97~102, 1986.
- 188) 辻豊次, 森信篤, 山内保文：斜航する船体に働く水圧力について, 船舶技術研究所報告, Vol.6, No.5, pp.15~28, 1969.
- 189) 野尻信弘, 村山敬一：規則波中の2次元浮体に働く漂流力に関する研究, 西部造船会会報, 第51号, pp.131~152, 1976.
- 190) 元良誠三, 小山健夫, 藤野正隆, 前田久明：改訂版船体と海洋構造物の運動学, 成山堂書店, pp.220~224, 1997.
- 191) 運輸省港湾技術研究所・港湾局：浮体工法開発調査報告書, p.171, 1985.
- 192) 土木学会海岸工学委員会：海岸波動, 土木学会, pp.291~429, 1994.
- 193) 三井造船昭島研究所：昭島研究所15年-研究開発の軌跡-, pp.105~130, 1995.
- 194) 日本造船学会海洋工学委員会性能部会：実践浮体の流体力学〈前編〉動揺問題の数値計算法, 成山堂書店, p.291, 2003.
- 195) 伊藤喜行, 千葉繁：浮防波堤の水理に関する近似理論と応用, 港湾技術研究所報告, Vol.11, No.2, pp.15~28, 1972.
- 196) 日本造船学会海洋工学委員会：超大型浮体構造物, 成山堂書店, p.351, 1995.
- 197) 上田茂, 白石悟：係留船舶の動揺計算法とその評価, 港湾技術研究所報告, Vol.22, No.4, pp.181~218, 1983.
- 198) Cummins, W. E.：The impulse response function and ship motions, Schiffstechnik, Bd.9, Heft 47, pp.101~109, 1962.
- 199) 久保雅義, 岡本俊策：岸壁前面係留浮体の遅延関数を用いた時系列解析の精度向上に関する研究, 海岸工学講演会論文集, Vol.34, pp.611~615, 1987.
- 200) 鈴木康正, 諸石一幸：ブイ係留船舶の荒天時の振れ回り運動, 港湾技術研究所報告, Vol.21, No.2, pp.107~150, 1982.
- 201) 上田茂：係岸船舶の動揺解析手法とその応用に関する研究, 港湾技研資料, No.504, p.372, 1984.
- 202) 鈴木康正：一点係留ブイの設計法に関する研究, 港湾技研資料, No.829, p.48, 1996.
- 203) 白石悟, 名里健吾, 川原弘靖：浮棧橋およびプレジャーボートの波浪中動揺特性に関する実験・解析, 港湾空港技術研究所資料, No.950, p.63, 1999.
- 204) 米山治男, 大垣圭一, 津田宗男, 栗原明夫, 平石哲也, 青野利夫：津波が係留船舶に及ぼす影響に関する模型実験と数値計算, 港湾空港技術研究所資料, No.1213, p.27, 2010.
- 205) 沿岸技術研究センター：港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリーNo.21, p.86, 2004.
- 206) 永井紀彦：ナウファス (全国港湾海洋波浪情報網) による我国沿岸の波浪特性の解明, 港湾技術研究所資料 No.863, p.113, 1997.
- 207) 川口浩二, 櫻庭敏, 藤木俊：全国港湾海洋波浪観測年報 (NOWPHAS2014), 港湾空港技術研究所資料, No.1319, p.126, 2016 他.
- 208) 土木学会編：水理公式集, 昭和46年改訂版, p.533, 1971.